

◇スポーツ推進委員の活動や研修の紹介

毎月第2火曜日は定例会議を行い、終了後随時研修会を行っています



- ・親子ひびきあい活動（市内小学校）
- ・幼稚園PTA軽スポーツ活動（市内幼稚園）
- ・子育て支援事業（健康福祉センター）
- ・ワイワイサークル（障がい者スポーツ支援）
- ・YASU ほほえみクラブ、さざなみスポーツクラブへの支援
- ・スポーツ推進委員研修会 ほか

◇ニュースポーツ紹介：モルック

「モルック」とは、フィンランドの伝統的なゲームを元に、子どもも大人も、また老若男女も楽しめるアウトドアスポーツとして 1996 年に開発されました。日本においてはお笑い芸人であるさらば青春の光の森田哲矢さんが日本代表選手で参加するなど、芸能人の間でも流行している注目のスポーツです。

モルックは、モルック（長さ 20 cm ほどの木の棒）を投げて、倒れたスキttl（数字が書かれた木のピン）の内容（倒れた本数または 1 本の時は表示されている数字が点数）によって、50 点ピッタリになるまで得点した方が勝ちというとてもシンプルなルールです。

ただし、50 点を超過してしまった場合は、25 点へ減点され、ゲームが継続されます。また、チーム内で 3 回連続スキttlを倒せなかったなどのミスが続いた場合は、得点は 0 点となり失格となります。

スポーツ推進委員協議会においても研修会を行ったり、ニュースポーツバイキングの種目に入れたりしながら普及に努めていますので、地域でのイベントや集まり等で行いたい時は、当会にご相談ください。



◇わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025

第 79 回国民スポーツ大会、第 24 回全国障害者スポーツ大会が 2025 年に滋賀県で開催されます。

野洲市での開催競技は、国スポの正式競技として、卓球、ラグビーフットボール、バスケットボール（成年女子）が行われます。また公開競技として武術太極拳も行われます。障スポの正式競技としては、卓球、サウンドテーブルテニスが行われます。県民誰もが参加できる「デモンストレーションスポーツ」として、スポーツ鬼ごっこ、マリンスポーツフェスティバルも開催されます。詳しくは下記の QR コードからご確認ください。



回 覧

元気になる

読めば“お得な”情報誌

スポーツ推進委員だより

編集：野洲市スポーツ推進委員協議会

事務局：野洲市生涯学習スポーツ課

電 話：587-6053

FAX：587-3835

令和5年3月

◇会長あいさつ

野洲市スポーツ推進委員の活動

平素は、野洲市スポーツ推進委員の活動に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在野洲市のスポーツ推進委員は、教育委員会から委嘱を受けた 24 名で活動しております。

ここに令和 4 年度の『スポーツ推進委員だより』を発行し、活動の一端を紹介致します。



野洲市スポーツ推進委員協議会
会長 山本博一

未だに新型コロナウイルス感染の終息が見通せない状況ですが、令和 4 年 11 月に、滋賀県スポーツ推進委員にとって最大の事業である「第 63 回全国スポーツ推進委員研究協議会・滋賀大会」が開催されました。全国から約 2,100 名のスポーツ推進委員並びに関係者が参加し、地域スポーツのコーディネーターであるスポーツ推進委員が果たすべき役割や今後の方向性について研究協議を行い、盛会に終えることができました。また、2 年後の 2025 年には、滋賀で「第 79 回国民スポーツ大会と第 24 回全国障がい者スポーツ大会」が開催されます。「スポーツの力」で滋賀を元気にすべく関係者一丸となって準備しています。

一昨年、コロナ禍で開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは多くの感動があり、スポーツが私たちの生活や社会に活力を与える重要な価値を持っていることを再認識しました。また、令和 4 年 3 月に国が策定した「第 3 期スポーツ基本計画」では、今後日本の「スポーツ文化」の成熟に向けて、スポーツの価値を高めるために、スポーツを「つくる/はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」といった新たな視点が盛り込まれました。

このような環境下、私たちスポーツ推進委員は、これからも、スポーツの持つ多様な価値を認識し、だれもが、いつでも、気軽に参加できる多くのスポーツに触れ合う機会を提供し、スポーツに親しみ、スポーツの楽しさや魅力を見つけ、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会実現のお手伝いをしてまいります。今後とも皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

◇2022年度の活動紹介

第12回ニュースポーツバイキング 6月25日(土): 総合体育館
新体力テストを同時開催

新型コロナウイルス感染対策を施しての開催!

スローイングビンゴ、ボッチャ、カローリング
モルック、スポーツ鬼ごっこ 全5種目

☆希望が丘文化公園レクリエーションコーナー

★新体力測定

全 年 齢: 握力・長座体前屈
6 歳 ~ 6 4 歳: 反復横跳び・立ち幅跳び
6 5 歳 以 上: 開眼片足立ち・10m障害物歩行



カローリング



ボッチャ



モルック



スポーツ鬼ごっこ



スローイングビンゴ

この催しの特徴・面白さ

- ・ご家族の参加が多い
- ・シニアの方も友人達と多く参加
- ・障がい者の方も参加できる
- ・何と言っても様々なニュースポーツが楽しめる

当会活動の様子は下記のQRコードから見るができます。

令和5年度は
7月8日(土)
総合体育館で
開催予定です。
お楽しみに!



第63回 全国スポーツ推進委員研究協議会・滋賀大会

令和4年11月17・18日 草津YMIT・栗東さくら



全国スポーツ推進委員研究協議会が滋賀県で開催されました。1日目は草津市のYMITアリーナで表彰式、記念講演、シンポジウムが行われ、滋賀県と野洲市の山本博一氏は大会実行委員会会長として重責を務められました。記念講演では東京パラリンピックのトライアスロン銀メダリストで甲賀市出身の宇田秀生選手が、障がいがありながらも前向きに生きて来られた足跡を素敵な笑顔で話され、会場が温かい空気に包まれました。



第1分科会 ～スポーツを通じた with コロナでの地域社会の形成～

第1分科会は18日に草津のYMITアリーナで開催。本分科会では with コロナでの活力ある地域社会の実現をめざし、地域の特性を活かした取組におけるスポーツ推進委員に求められる役割を探りました。

《事例発表1》徳島県唯一の「村」である佐那河内村は2000名を切る人口減少に直面する中、総合型地域スポーツ「さなごうちスポーツクラブ」を通じて、地域一体で取り組む事例を紹介。高原の資源化から「観光×スポーツ」といったスポーツツーリズムの可能性についての発表でした。

《事例発表2》民間企業と自治体と連携を図りながら、持続可能な街づくりを進めている鳥取県伯耆町と北海道小清水町の事例を紹介。既存の枠組みや固定観念を払拭し思い切った「リフレイミング」が必要でスポーツ推進委員として、活動成果を再定義する事や地域を見つめる事、さらにネットワークを生かし創造力が求められる内容でした。

《事例発表3》コロナ禍で様々な活動が困難にある中で、発想の転換から「出来る事から始める」との視点に立ち、「リスキリング」と「DX」の焦点からモチベーションアップを図る活動が紹介されました。

第2分科会 ～スポーツを通じた共生社会の実現に向けて～

第2分科会は、11/18『栗東芸術文化会館さくら』で開催。3つの事例紹介があり、会場から事業運営方法や障がい者とのコミュニケーションの取り方等活発な意見交換が交わされました。

《事例発表1》京都・綾部市として、ニュースポーツ「あやべ・クロスロー」を障がい者と共に体験し障がい者スポーツ普及活動を積極的に取り組んでいることの紹介でした。

《事例発表2》石川・障がい者スポーツ協会として、「精神障がい者フットサルクラブ」を軸に24協力協賛団体を得て、次世代の人材育成のためのセミナーやフォーラムを各地で開催し、共生社会創生の取り組みをしている紹介でした。

《事例発表3》滋賀・障がい者スポーツ協会として、県内4箇所です3回、年12回の事業を実施し、障がい者スポーツの普及啓発と共生社会実現に向けて継続して取り組んでいる紹介でした。

【全体の感想】

全国各地から集結したスポーツ推進委員相互の意見交換により『日々の活動状況からの熱い思いや仲間意識』が会場全体に伝わってきて、非常に有意義な分科会になりました。

令和5年度は、青森で全国大会が開催されます。